



金髪貧乳退魔師が
肉体改造されて
孕み袋にされる話…

深夜、妖魔の発生に出動していた下級退魔師のアリサは各所で
暴れまわる妖魔の一匹に敗北し身体中に触手が絡みつかれていた。



いくら霊力で強化された身体能力でも下級退魔師の能力では
妖魔の脅力から抜け出すことはできなかった…。

なんとか拘束から抜け出そうと藻掻いていたアリサの首に触手が巻きつきアリサの首を締め上げる。

あぐっ!!

んっ…のっ…
くっ…のっ…
絡みつくなあ…っ…

首元の触手をつかみ外そうとするもビクともしない。



ギリギリと少しづつ首を絞めつけられ焦りが募っていく…。

ん…
ずいぶんきついな…

は…ん…
きついな…

動脈が締めまりドクドクと心臓の音が頭の中に響き周りの音が遠のいていく…。



必死の抵抗で意識を保っていたが限界が近づきアリサの顔が青くなってゆく。

あがっ……あがっ……

か……わ……る……

やばいやばいやばいやばいやばいっ
これ以上は……ほんとに死んじゃう……!!



意識が遠のきかけたところで身体にまとわりつく触手の本体が
アリサのもとに近づいてくる。

ふんふん

おお…今夜もイキのいい娘を
捕まえられるな

これは持って帰って
僕の苗床の一つにしてやろう

あまりにおぞましい言葉を聞き、アリサは戦慄する。



意識が遠のいていく中アリサは必死に手を伸ばすが近くには誰もいない。

あ……アリサ……

だ……だれ……

ククク……こんを辺鄙なところに誰も助けなど来んよ

さあ……大人しく乗るといい

首の触手が一層強く締めまりアリサの動きも徐々に鈍くなっていく。



アリスは一瞬の浮遊感を感じた後、意識が消え身体力が抜けていく。

あ……

ククク……さて
他のやつらが来る前に連れて帰るとしよう

全身の筋肉が弛緩しアリスは失禁してしまい、辺りにアンモニア臭が立ち込める。



妖魔は満足気にその様子を見た後
アリサを巣に連れて帰った。



粘液に覆われた触手まみれの巢の中でアリサは目を覚めます。



目を覚ましたアリサは周囲を見回し自分の状況を確認するも
あまりの臭気に顔を顰める。

何……何……

うう……
ヌルヌルでく、臭い……

全身にまとわりつく粘液と何日も洗っていない性器のような臭いに
頭がくらくらする。



目覚めを待っていた妖魔は楽しみにアリサへ語り掛ける。

へへへ…
アリサ、目を覚ましてか…

やはり肉体改造は
意識がある状態で行わなければ

改造って…
な、何をする気??

妖魔に襲われ連れ去られた女性、特に霊力を持った退魔師たちは
個別に肉体改造を行い子を孕み産み育てることに最適な身体に
作り変えられていく。



妖魔は手始めに退魔師が纏うスーツを脱がせることから始める。

まずはその邪魔な防護服を除去していきましょうか

ひっ!?
いいや!?さわるなあっ!

下級退魔師に与えられる戦闘スーツは最低限ではあるものの、精神汚染などに対する防御力があるため肉体改造には邪魔になる。



触手から分泌された粘液に浸されたスーツはたやすく溶け
肌が露出していく

ああそんな…っ
スーツが溶けて…!!

くくく…
この程度の物ならば
たやすく取り除けるな

まあこんな邪魔な物
さっさと脱がしてしまおう

身をよじり何とか拘束から抜け出そうとするも身を守るスーツは
無慈悲に溶けていく



ボロボロになったスーツは効果を失ったため妖魔は巨大な口を開け
アリサの身体を飲み込み始める。

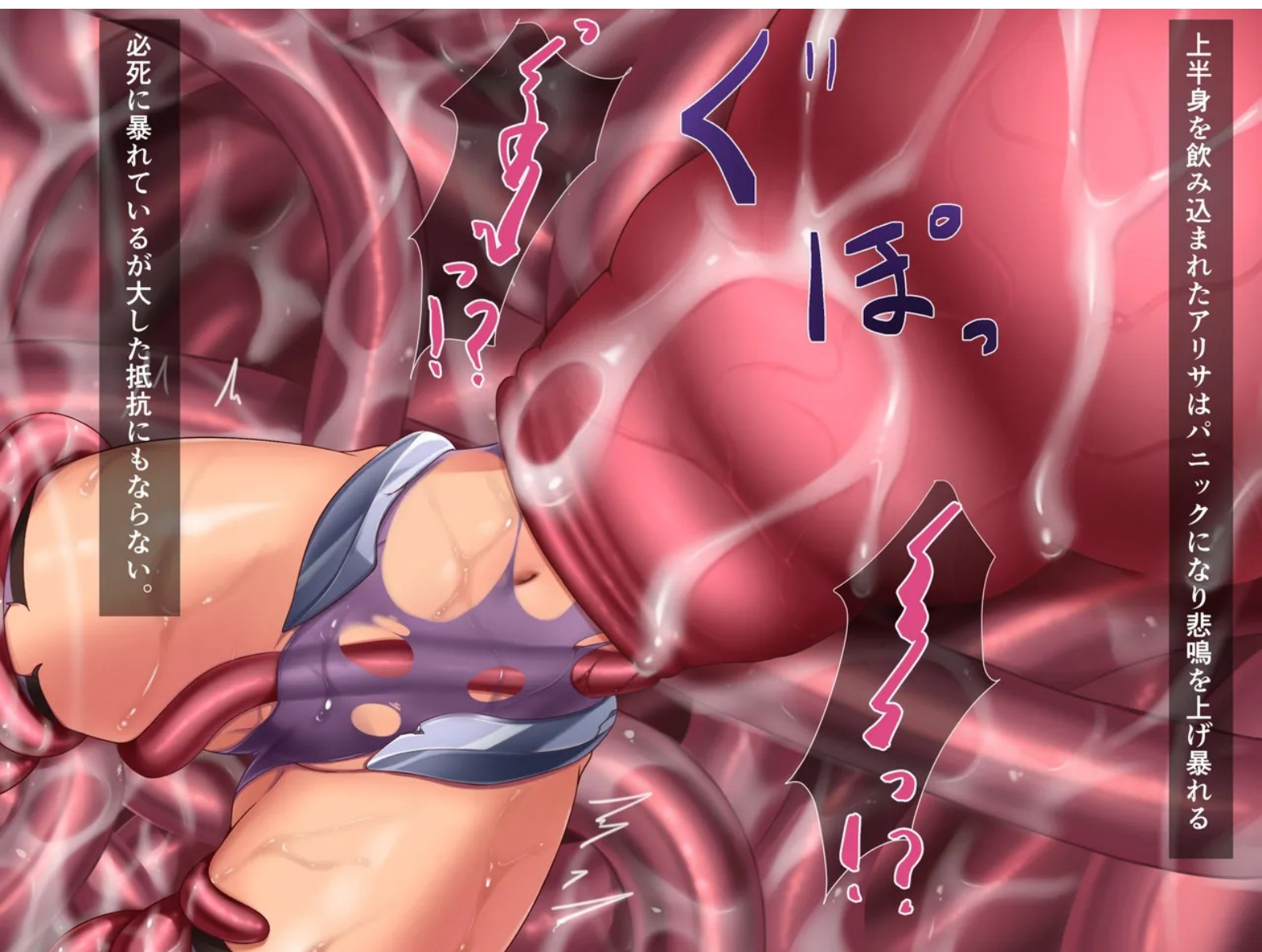
これだけ防護服が損傷すれば
意味をなさないだろう

ええっ!?
こ、今度は何っ!?

本格的に肉体改造を
始めようか



上半身を飲み込まれたアリサはパニックになり悲鳴を上げ暴れる



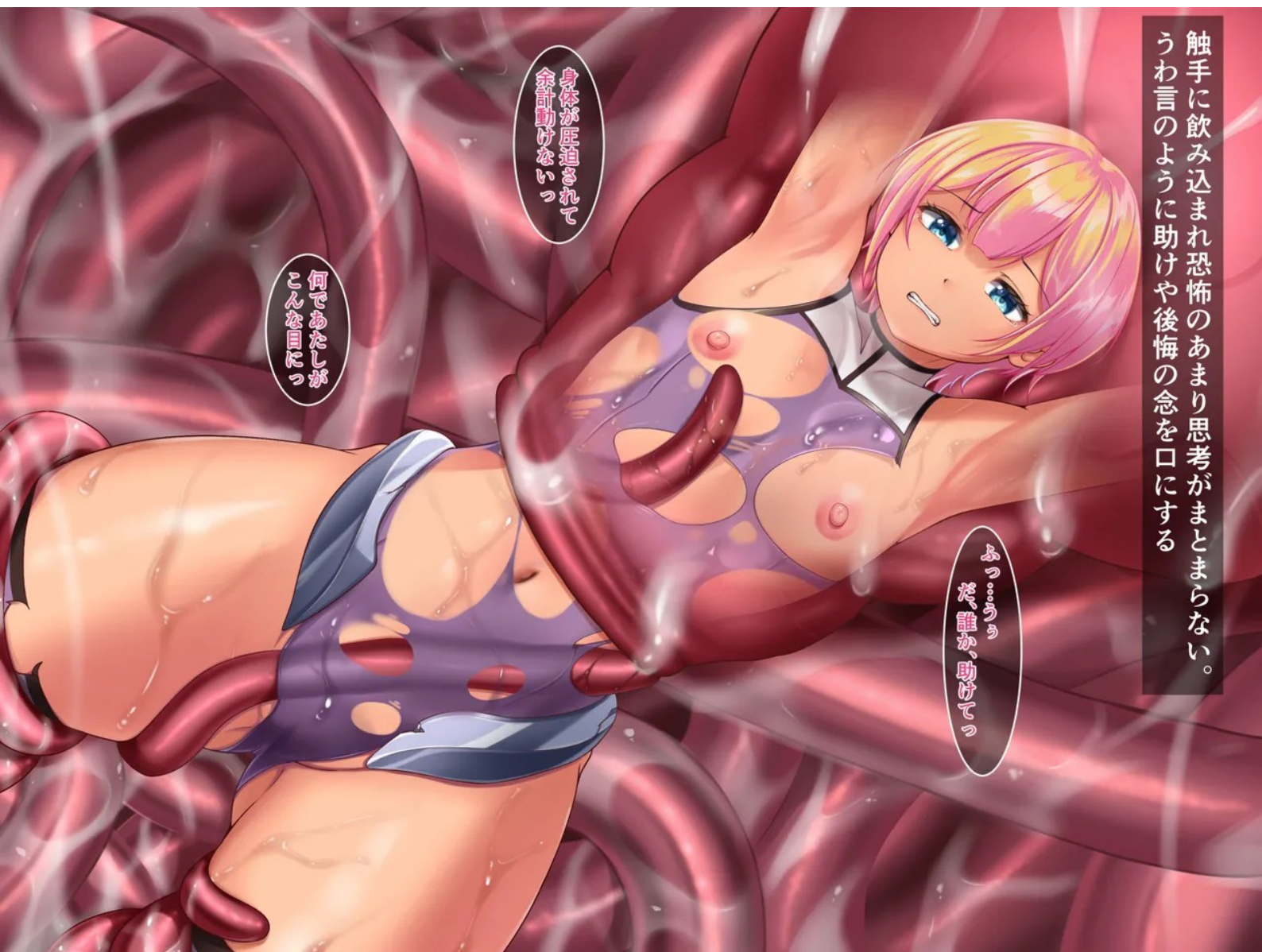
必死に暴れているが大した抵抗にもならない。

触手に飲み込まれ恐怖のあまり思考がまとまらない。
うわ言のように助けや後悔の念を口にする

ふっ……ふっ……
だ、誰か、助けてっ

身体が圧迫されて
余計動けないっ

何であたしが
こんな目だっ



触手の中で管が現れアリサの口と鼻を覆う。管の中からガスが噴き出し吸入してしまう

ここからは少し危険なので抵抗できないようにしてやる

ブッポッ

ん……おん……
変なおいが

力が……抜けて……

ガスを吸い込んだアリサは身体がしびれ全身の力が抜けていく



ガスが全身に回り筋肉が弛緩してしまい身動き一つ取れなくなったが不思議と意識だけははっきりと残っていた。

お……お……

何……これ……

意識ははっきりしてるのに……
身体が全然動かせない……！

ようやく大人しくなったな
まずは脳を直接いじり思考や感度を
調整していくぞ

ガスが回りきるのを待っていた妖魔はついにアリサの脳をいじり始める。



細い触手が耳から侵入し、鼓膜を突き抜け中で神経よりも細く枝分かれた触手がアリサの脳に絡みついていく。

が……

耳が……
何をする気……!?

よしよし……
これで一番危険な所は
終わったな

さあ……想像出来ないほどの
快感に身もだえるといい

ぎっ!?

一瞬の激痛が走るもアリサはピクリとも動くことはできない。



頭の中を中心に全身にゾクゾクとした快感が走り、徐々に絶頂感がこみあげて来る



軽い絶頂を何度も繰り返すがうめき声しか上がらない。
波のように押し寄せてくる絶頂感が少しずつ強くなっていく。

絶頂が止まることなく際限なく強烈なものとなっていき反射的に身体がビクビクと痙攣する。



強烈な絶頂感を感じながら脳を改造され、すべての痛みを快感に変換し、どれほど刺激されても気を失うことができない身体に変えられていく。



永遠とも思える時間絶頂し続け、ようやくアリサの耳から触手が抜ける。

ふむ…脳改造は上手だったな

ああ
ああ

これで精神を壊さず
僕らの子を孕み続けることが
出来るようになっただろう

廃人になった女は
面白味が無くなってしまったからな

脳改造を受け例え今、救出されても日常生活を送れないほど全身を性感帯にされ
また、どれほど犯されようとも壊れることが許されない身体にされてしまった。



数時間後



脳改造による絶頂により気絶していたアリスは恥ずかしい姿で目を覚ます。

起きたか？
なかなかいい恰好だろ

綺麗なアナルまで
ぼっち見えてるぞ

おっおっおっおっおっ

はははははははは

ただ見られ恥ずかしい言葉を投げかけられるだけでも
ゾクゾクとした快感が身体を這い回り股間が疼いてくる。



脳改造により妖魔との性行為に対して強制的に身体が発情し始める。
アリサの意志とは関係なく股間がヒクヒクと収縮し妖魔にアピールしてしまう。

ひりひり……あ……

おねがひ……
もう……許して……

そんなこと言っちゃならぬ
身体はコレを求めているように感じる……

う……う……う……う……う……
あんなおねがひはしてないのだ……アリスが
ほんとにウズウズしてへる……



妖魔の性器が秘部に擦り付けられアリサは軽い絶頂感を覚え、あっさりと抵抗が無くなる。

あっ♡

アッ

グッ

んん♡

アッ

グッ
グッ

やはり改造の甲斐があったな
普通ならここで激しい抵抗があるのだがな

軽く触れるだけで簡単に堕ちる

ヌクッ

ヌルッ

ああ...ダメなのに...
気持ち悪いはずなのに...
早く欲しって気持ちがあふれて...止められない...♡



ぬ
ほっ
♡

ん
♡

ん
お
♡

勢いよく挿入され激しい絶頂を起し視界が明滅する。
改造により膣内の壁にまで神経が張り巡らされ挿入された性器の形や動きが
敏感に伝わる。

おか……

ほ……

なに……これ……♡
膣内までクッキリみたいに敏感になって
形まではっきりわかる……♡

やば……ヤン……♡
気持ちよすぎて……頭が……♡
なっちゃん……♡

おお……やはり反応がいいな
膣内が震えておるわ



気分がよくなった妖魔はアリスの膣内を容赦なくかき回し再び絶頂地獄を
味合わせる。

くっ♡

おお、

ほお♡

♡

ググッ

ググッ

ググッ

イクッ、イキ死んじやう♡
とめてっとめてええええ♡

ほれほれ、どんな動きしてるか
はつきり分かるだろ！

さらなる快感を与えるためゴツゴツした触手がアナルに近づいていく。

ハーーーーッ

ほら、アナルだって極限まで
感でるようになってるはずだ

しっかりと味わうがっ

ハーーーーッ

あああっ!?
待ってっ!?もう無理っ!!
ほんとに死んじゃうからあ





んっ
おお
おお
おお

んっ
おお
おお
おお

んっ
おお
おお
おお

んっ
おお
おお
おお



アナルをこじ開け直腸から膣壁と子宮をこねくり回され
感じたことのない激しすぎる快感を受け巢の中に汚いメスの咆哮があがる。

妖魔側も射精感が高まり精子が子宮内に届くよう、子宮口をこじ開けんばかりに奥へ侵入していく。

がくっ

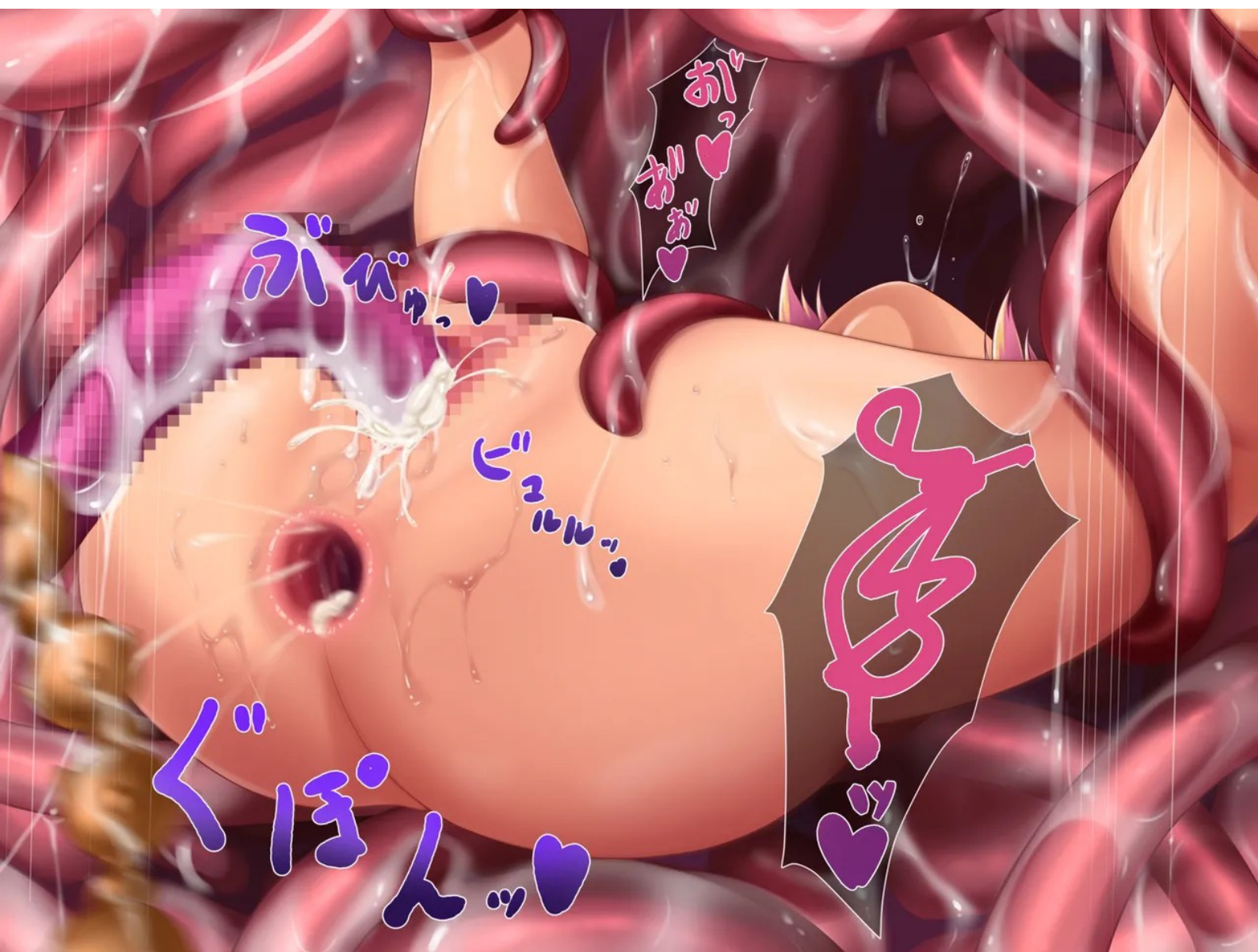
よおおーし詰すぞ
しっかり僕の子をはらめよおー!

ダメダメダメ
妖魔の子なんて嫌なのに
口が勝手にいいッ

あああ——ッ♡
せいしっ一杯オマンコの中に
だして欲しい——ッ♡

グブッ♡

頭の中では必死に抵抗しているはずが身体は全力で精子を求めより強力な絶頂の波が押し寄せてくる。



がががっ♡

ぐるるる

ぐぼん♡

おっ♡
おっ♡
おっ♡

あ
♡

妖魔の精液が子宮の中にたつぷりと注がれアリサの脳内から大量の
幸せホルモンが分泌され幸福感に包まれる。

あー！

ふう……
これだけ出せば十分だろう

妖魔に犯された人間の
妊娠は確かだからな

はへ
はー！

度重なる絶頂で気を失い脱力したアナルはぼっかりと開いたままになっていた。



たっぷりと子宮に精液を注がれたアリサは
その日のうちに妊娠してしまう。

再び意識を取り戻すと腕を後ろに拘束され胸を突き出す様な恰好になっていた。

へ…っ
今度は何をやる気…っ

ククク…
さすがにその貧相な身体では
子が生まれてもちゃんと育てることが
出来ないだろうからな

貧相っへ…っ
…っ



毒々しい色をした液体が透けて見える注射針を持った触手がアリサの乳房に近づいてくる

ひ……り
じ、これは……

なにそんな乳房では
栄養のある母乳を用意できないだろう

この特製の魔薬を使えば
あっという間に栄養満点の
母乳が出るようになる



注射針を容赦なく乳首に刺されるも予想外に甘いしびれが胸全体に広がる

イッ……

ククク……
お前の身体は快感しか
感じないはずだ

敏感な乳首に針を刺され
軽くイッたかな？

……う……う……う……

プッ……

プッ……



魔薬が乳房の中に根を張るように広がり乳腺を侵していく。
何か生き物が胸の中を這い回っているかのような感覚に感じたことのない
快感を覚える。

はあ…はあ…
ん…くぅ…ッ!?

その魔薬は乳腺を異常発達させ
急成長に伴う損傷を即座に癒してくれる

痛みが快感に変わる今の身体なら
乳房の変化も十分楽しめるだろう



膨らみ始めた乳房にドクンドクンと快感が渦巻き、身をよじり
何とか快感から逃れようとする。

んあ…♡あ…熱ッ
ううう…

おっぱいがギューンギューン
イッて止まんないいらら…ッ

んん♡

うー…♡

ドクッ

ドクッ



十分膨らんだように思えたアリスだが魔薬の注入が止まらない。

あ、もういっぱいだよ……
もういらないッ
これ以上いれないでえッ……

ククク……
こんなものじゃ全然足りないぞ

もっと注入して相應しい
身体を受け入れる



魔薬を注入され続け乳房の疼きがドンドン強く我慢できないものになっていく。





魔薬の注入が終わり乳房の急成長もようやく落ち着きを見せる。
とんでもない重量の乳房を揺らしながらアリスは呆然としていた。

あ...あ...あ...♡
お重...♡

素晴らしい
これほどギッシリと乳腺が
詰まっていれば大量の母乳が出せるだろう

ぶるん

ぶるん

後ろから再び妖魔のペニスが近づきアリサのお尻に擦りつけるように蠢く

ヌル...

ヌルッ

母体の準備は完了した
これから赤ん坊に成長促進液を与え
出産予定日を早めるとしよう

ひっ...
ああ...もう嫌...
これ以上壊さないでええ...♡

脳改造による影響で強制的に期待させられ
正気な心とごちゃ混ぜになっていき、抵抗できない。

勢いよくペニスを挿入され下腹部がボコンと飛び出し絶頂したアリサの乳房から母乳が噴き出した

どろろん

ブ
ン
ッ
ー

んお♡♡♡♡



んっ♡

おっ♡
おっ♡
ッ♡

グイグイと子宮口をこじ開けようと
ペニスを押し付けられ絶頂の波が
止まらない。

脈打つように膈内が蠢いて
良いマッサージになる

おお…
ギューギューと締め付けてきて
余程期待していたのだな

ギュー
ニッ



チンポがお腹の中で
ピクピクして.....ッ、ああああッ♡

は...ッ、あへッ♡

よし
子宮の中に直接、成長促進液を
注入していくぞ

びゅっとペニスから射精に似た
成長促進液を子宮内に注入され
再び絶頂感が込み上げてくる。



お♡♡♡

♡♡♡♡♡

ドゥン

ヒッ

ヒッ

ドゥン

が♡♡♡♡♡

妖魔が出す成長促進液は
人体には刺激が強く
絶え間ない快感をアリサに
与え続けた

どうだ、腹の中を
満たされる感覚は？
気持ちいいだろう…

プツ…

プツ…



腹が膨らむほどの液を注入されるも
気を失うことを許されず
うめき声を上げながら身を
震わせていた。



あー！
はっ♡

ひっ♡
へっ♡

出産の目まで楽しみに
してるといって

これだけ与えれば
良く育ってくれるだろう

快感の海に浸ったアリサは
震えながらうわ言のように返事をした。
液に浸された幼体が徐々に
大きく成長していく。



幼体はどんどん成長していき
数日とたたずアリサは産気づいた。

急激に成長する幼体に栄養を与えるため四六時中、栄養剤を胃に流し込まれ
身体を冷やさぬようザーメン風呂に浸されていた。



常に与え続けられる快感に身体が慣れることはなく正気を失うことも
出来ず天国と地獄を同時に味わわれていた。

大きく膨らんだ腹に絶望し諦め心を無にするように努めていた。

そろそろ生まれるころだろう

さっきからお腹の中で
ポヨンポヨンっている...

ポッッ

ポッッ

退魔師の霊力を吸った
優秀な妖魔が生まれるのは喜ばしいことだ

またイッちゃうから
動かないでよお...ッ

しかし胎内で蠢く妖魔がアリサの心をかき乱す。



破水したアリスの膣穴から勢いよく液体が噴き出し子宮から妖魔が這い出てくる。

おお！ついに
産まれるぞッ！

人
ラ
ッ
♡

[illegible]

ぶしあめ！

わ
し
ゃ

出産の痛みは快感に変換されアリサの脳はスパークを起こす。

アリサの膣口が大きく開き粘液にまみれた妖魔の子の頭が出てきた。



すでに意志をもっている妖魔の子は胎内に残った身体を動かし母の子宮内をかき回し、アリサはビクビクと痙攣する。

妖魔の子は下半身を激しく動かしアリサを責め立てながら這い出てくる。

限界を超えた快感にアリサの瞳は大きく裏返り、改造された脳でも耐えきれず意識が明滅する。



ようやく出産が終わりだらしく開いた膣口からへその緒が垂れ下がる。

ククク…
これで完全にお前も
立派な妖魔の母になったわけだ

ドゥン。

ずるん。

よく頑張ったじゃないか

おご
えんぞー！

ゴ
プッ

体力を限界まで使い尽くしたアリサは強烈な余韻に浸りながら気を
落ち着けていく。

気を落ち着かせていたアリサのもとにいくつものペニスが寄ってくる。

さあ、少し休憩したなら
次の子を産むための準備と行こうじゃないか

は……あ……あ……
もう終わったんじゃない……

ヌルッ

何を言っている
お前は死ぬまで妖魔を産み続ける
孕み袋なんだぞ

一生、妖魔の孕み袋がじゃめるのだから
喜ぶところ……

あ……あ……ん……
あ……あ……あ……

妖魔に孕み袋にされた女性は例え救い出されたとしても
日常に戻ることは出来ない。

ずい

ずい



こうして、妖魔は毎日のように産み出され
孕み袋にされる犠牲者が増え続けていった。